News Letter

vol.14
2022 spring

男女共同参画推進室・女性活躍総合研究所

ミモザの花

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

CONTENTS

p.1 ◆ MESSAGE ◆ VOICE
p.2 ◆「夢と虹基金」 令和３年度 武庫川学院女性活躍給付金 採用者を決定しました
◆ 管理職対象メンタルヘルス研修 2021 年 11 月 30 日（火）・12 月 10 日（金）開催報告
◆ 第１回ランチ・ミーティング～初めての男性教職員の子育て交流会～ 2021 年 12 月 17 日（金）開催報告
p.3 ◆ 子育て支援 ◆研究支援員制度の変更について
p.4 ◆ 働き方セミナー 2022 年２月 19 日（土）開催報告 ◆ TREND 育児・介護休業法改正について
p.5 ◆ 2022 年４月より SOAR（ソアー）プロジェクトが始動します
◆ 卒業生座談会「国内外で活躍する武庫女卒業生－ covid-19 パンデミック社会の新たな挑戦のなかで－」2021 年 10 月 30 日（土）開催報告
p.6 ◆ Pronunciation and Communication Seminar with Takeuchi sensei November 13th, 2021
◆ ひょうご理系女子未来塾活動について
p.7 ◆「女性のキャリアとコミュニケーションスキル講座」2022 年１月 22 日（土）開催報告
◆ 関西圏女子大学「第 10 回異分野交流会」2022 年２月５日（土）開催報告
◆「テキストマイニングセミナー」2021 年 12 月８日（水）/「統計学セミナー」2022 年３月 12 日（土）開催報告
p.8 ◆「第２回国際女性デー MUKOJO フォーラム」2022 年３月５日（土）開催報告

Message

三好 庸隆　生活環境学部長

男女平等に果敢に取り組み、成長を実現している国がメディアなどで紹介される中、日本はよく知られだしていますように、ジェンダーギャップ指数が 156 か国中 120 位と、先進国の中で最下位です。日本は女性を活かす社会像が示せていないとメディアは指摘します。

そのような日本においては、女子大の社会的使命とその可能性は大きいと思います。ましてや「日本の女子大を更新しよう。」とのメッセージを掲げる我が大学に社会が期待することは大きいに違いありません。この期待に応えるため、我々に求められているのは、メッセージを踏まえ、社会での実装に向けて教育分野を中心とした情報発信、仕組み・仕掛けづくり・具体的取組とその成果の評価であると思います。

男女共同参画推進室及び女性活躍総合研究所のお仕事から、そのような意気込みが読み取れるのは心強いと思っています。我々教職員はその動きを応援していく必要があります。

一方で、日常のゼミ生との会話で、男女共同参画や女性活躍の視点からは古いのではと思われる規範に囚われる学生さんの思考・行動にたまにですが出くわすことがあります。それまでの教育やご両親のお考えが影響を与えているのではと思われる現実です。そのような場合、子を思う親の気持ちにも配慮しつつ私の考えをそっと伝え、そのゼミ生さんが生き生きと自らの人生を切り開き幸せな人生を歩むようにと願っています。

いま、我々を含む社会全体の本気度が問われだしています。

VOICE

VOICEとは･･･子育て･働き方･介護等について、教職員の方の日頃感じていることや体験談をご紹介するコーナーです♪

加治 由佳子 主任指導員（丹嶺学苑研修センター）

岐阜かがみがはら航空宇宙博物館

我が家は３人家族。息子は、たんの吸引や人工呼吸器管理などの医療ケアが必要な 19 歳。

夫は専業主夫で息子の介護と家事担当。そして、この６年で白血病を２度発症するも、弟妹からの骨髄移植で復活した私です。

息子は手術や入退院を繰り返しながらも成長し、今は状態も安定。昨年購入した念願の電動車椅子を運転、意思疎通はジェスチャーとタブレットの音声アプリ。最近は「お母さんお風呂の時間！」と指示されるほど（笑）。車や飛行機が好きで、あちこちの博物館に行くのが我が家の楽しみです。

私が思う、普通の毎日を最高に生きる方法３つ。①幸せのハードルを下げること。今日も目が覚めた、息ができる、手足が動く。それだけで本当に幸せ。②そのままを受け入れること。息子が寝たきりでも、話せなくても、ただ生きてくれているだけでいい。③今日が最後の日と思って生きること。

男女共同参画推進室

「夢と虹基金」
令和３年度　武庫川学院女性活躍給付金　採用者が決定しました

本制度は、武庫川学院創立 80 周年記念事業として行った「夢と虹基金」を原資とし、令和元年度に制定されました。自らの夢の実現に向かって取り組み、その文化的活動が顕著であると社会的に高く評価された本学の卒業生（原則として、日本内閣府春秋叙勲受章者・褒章受章者及び産業・文化・社会事業など各界功労者以上の活躍）に「褒賞金」を、学生・生徒（文化的活動若しくは学術研究活動で、世界・国レベルで評価）に「奨学金」を給付することで、幅広く優れた女性の活躍を奨励します。

令和３年度の募集では７名（卒業生２名、学生５名）の応募があり、選考委員会で審議した結果、次の５名の方が採択されました。

No.	区分	所属	代表者氏名	活動内容	給付額
1	個人	大学院 生活環境学研究科 食物栄養学専攻 2 年	金　知永	「モヤモヤ病」に関する研究　共著論文、論説等の掲載 「Dynein intermediate chain 2c(DNC12c)complex is essential for exiting Mad2-dependent spindle assembly checkpoint」Toshiyuki Habu,Jiyeong Kim; BBA - Molecular Cell Research, 2021, 1868, 119120 他 4 報.	5 万円
2	個人	専攻科 音楽専攻科器楽専攻	今井　紀子	「令和 3 年度全国新人中間層競吟大会」上級の部　優勝（東明杯・会長杯）	5 万円
3	個人	専攻科 音楽専攻科声楽専攻	岡部　祐希	・「第 9 回津軽三味線津軽民謡全国大会」 青森県民謡部門準優勝、鯵ケ沢甚句部門優勝、津軽五大民謡部門優勝 ・「令和 3 年度公益財団法人 日本民謡協会民謡民舞全国大会」民謡青年部 旗戦（梅の組）優勝	10 万円
4	個人	大学 英語文化学科 3 年	香川　友里絵	・「第 45 回福澤杯争奪全日本学生英語弁論大会」 演題「For All Lives」(すべての命に捧ぐ) 準優勝 ・「第 9 回活水女子大学エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト」 演題「A Package of Life」準優勝	10 万円
5	団体	大学 英語文化学科 4 年	豊田　姫菜	「第 15 回森田杯・英文毎日杯日本文化プレゼンコンテスト」優勝、森田杯	5 万円

男女共同参画推進室

管理職対象メンタルヘルス研修
2021年11月30日（火）・12月10日（金）開催報告

ストレスのない風通しの良い大学の労働環境を実現しようと、2021 年 11、12 月の２回、日本産業カウンセラー協会関西支部の講師を派遣いただき、学内教職員（特に管理職）を対象にメンタルヘルス研修を実施しました（オンライン・受講者数 122 名）。

コロナ禍の長期化でストレスを抱えがちなことから、教職員が自身のストレスに対処し、管理職が部下や学生のメンタル不調に気づくためのポイントを、講師が事例を交えて「セルフケア」と「ラインケア」をテーマに説明しました。

研修を受けた職員からは「何気ない言葉や態度がハラスメントや人権侵害につながらないよう、コミュニケーションの取り方を改めて考える機会になった」という声が聞かれました。

主催：人事部　共催：男女共同参画推進室・健康サポートセンター・人権教育推進委員会・SD 推進委員会

（人事部兼男女共同参画推進室 専門員　鈴木 正一）

男女共同参画推進室

第１回ランチ・ミーティング～初めての男性教職員の子育て交流会～
2021年12月17日（金）開催報告

延期となっていた男性教職員が参加するランチ・ミーティングは、現在育児中の方、パートナーが妊娠している方、ご結婚されたばかりの方、子育て時期を終了した方など教職員が参加し、終始笑顔が絶えない明るいミーティングとなりました。

当日は、共働きの家庭での悩み、専業主婦であるパートナーとの意見の違い、日頃の子どもに対するしつけや接し方への考えや経験を共有しました。これまでに直面している親の悩みを参加者で情報交換しながらも、〝子育ては面白いよね〟という参加者の言葉に共感するミーティングでした。

ランチ・ミーティングの最後には、「妊婦体験スーツ」の試着機会を得て、参加者が妊婦体験をしました。この体験を通して、〝妊娠している方は日々こんなに大変なんだ〟と強く実感しました。育児だけでなく、ワーク・ライフ・バランスに関する話題もつきることなく、予定を 30 分オーバーしての閉会となりました。

参加者からは、「様々な方のお話が聞けて、非常に参考になりました」「ワーク・ライフ・バランスは、家庭内の問題と仕事上の問題の２つが解決して、できあがる大きな課題だと思います。こういった機会がもっと増えるとより良くなると思います」「時間はいくらあっても話はつきない」などの感想をいただきました。

今後も、学部学科、部署の垣根を越えて、より良い交流の場を提供したいと思いますので、ぜひご参加ください。

（男女共同参画推進室 専門員　宇佐美 彰規）

男女共同参画推進室　子 育 て 支 援

ラビークラブのご案内

子育てと仕事・学業の両立支援を目的とした一時預かり保育ルーム「ラビークラブ」は、満１歳～12 歳（小学６年生）までのお子さまを対象に、土日祝を問わず仕事・学業がある場合に利用できます。委託先の株式会社ポピンズファミリーケアは年齢に合わせた細やかな保育が好評です。利用申込は利用２日前（土日祝を除く）の 15 時まで。初めてのご利用は事前の登録手続きが必要です。詳細は HP、または男女共同参画推進室までお問い合わせください。

コロナ禍の感染症対策（2022 年３月現在）

定員を縮小し、２家族４名までのお預かりとしています（体調不良のお子さまはお預かりできません）。１家族に対し１名のシッターを配置し、できるだけ子ども同士の接触を避けて保育を行います。また、利用の都度、部屋や遊具の消毒などを行っています。預け先でお困りの際は、ぜひご利用ください。

※お子さまの保育・教育機関が休園・休校の場合は、特別有給休暇の取得を推奨します。また、利用希望者が多い場合は、一人当たりの利用回数を制限することがあります。

※通常の定員、保育環境に戻る際は、info@MUSES にてお知らせします。

利用料（基本料金）

	登録料／年度	利用料／時間
年度会員（教職員）	5,000 円	1,000 円
年度会員（学生）	2,500 円	500 円
都度利用	なし	1,850 円

ベビーシッター派遣事業割引券のご案内

本学は、教職員（私学共済加入者）の皆様の仕事と子育ての両立を支援するため、内閣府「ベビーシッター派遣事業」の助成を受けています。割引券は仕事のためのご利用に限り、小学３年生まで * を対象に、全国保育サービス協会が認定した業者で利用できます（本学が法人契約を結んでいる株式会社ポピンズファミリーケアでも利用可能）。割引券１枚につき 2,200 円の割引が受けられ、１日（回）対象児童一人につき２枚まで、１か月に 24 枚まで、１年間に 280 枚まで使用可能です。詳細は HP をご覧ください。

* 身体障害者手帳または療育手帳の交付を受けている場合は、小学６年生までの子ども

コロナ禍の特例措置について（2022 年３月現在）

新型コロナウイルス感染症対策のため、保育園・小学校等が休園・休校等になり、放課後児童クラブ等も利用できず、就労を継続するためにベビーシッターを利用することが必要となった場合は、特例措置の対象となります。

使用枚数の上限：１日対象児童一人５枚、１家庭１か月 120 枚

※特例措置の利用には、休園・休校が確認できる資料（保護者への手紙や HP でのお知らせ等）の添付が必要です。

※特例措置終了の連絡があった際は、info@MUSES にてお知らせします。

＜ご利用者の声＞

娘はこの４月に小学生となるため「ベビーシッター」より「キッズシッター」という呼称の方がマッチします。これまでは夜間や休日勤務の際にシッターサービスを利用しておりましたが、今後はいわゆる「小学校の壁」を乗り越えるためにも活用していく予定です。シッターさんにお世話や送迎をお願いすることで「壁」を低くするとともに、子どもが豊かな生活を送るため、支援を受けたいと考えています。（M 先生）

HP 子育て支援

男女共同参画推進室　研究支援員制度の変更について

2019年度文部科学省 科学技術人材育成費補助事業(2019～2024) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

研究支援員制度とは、出産・育児・介護・看護に関わる研究者の研究活動を維持・促進するため、研究支援員を派遣する制度です。2013 年度から運用をスタートし、近年では毎年十数名の支援を行ってきましたが、利用者・支援者双方が長期化、固定化する傾向にありました。そこでこの度、利用者の定員を定め、利用期間に上限を設けることで、研究者が広く支援を受けられるよう、特に若手研究者育成の観点から制度の見直しを行い、研究支援員の処遇を改善しました。（次年度の募集は終了しました。後期募集は７月中旬の予定です。）

【利用者の資格要件】本学の専任・嘱託の女性研究者又は大学、大学の共同研究機関、独立行政法人にて研究職に従事している配偶者（専任・嘱託研究者）を有する本学の専任・嘱託の男性研究者で、次の①～③のいずれかに該当する者。

① 妊娠中又は小学６年生までの子ども、もしくは障害児・者を自身が主として養育している研究者

② 配偶者又は２親等以内の親族を看護している研究者

③ 要介護者である家族を介護している研究者

※ただし、産前産後休暇・育児休業・介護休業を取得している研究者は、当該期間は対象外とします。

【利用年数】年度ごとに申請し、１つの支援事由につき最長５年まで利用可

【支援時間】週 10 時間以内、月 40 時間以内

【定員】出産・育児・介護・看護：10 名、女性管理職：２名

詳細は HP、または男女共同参画推進室までお問い合わせください。

※申込多数の場合は、通算支援期間の短い方を優先するなど優先基準による選考を行います。

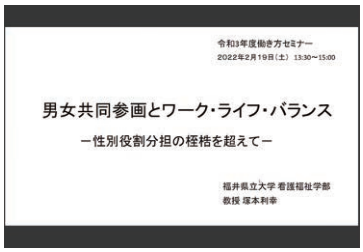
男女共同参画推進室　女性活躍総合研究所

働き方セミナー 2022年2月19日（土）開催報告

2019年度文部科学省 科学技術人材育成費補助事業(2019～2024) ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス　－性別役割分担の桎梏を超えて－」

福井県立大学
看護福祉学部　教授
塚本 利幸



本年度の働き方セミナーは、年度末の多忙な中で学生を含む 33 名の参加者を得て開催しました。

塚本先生の気さくで、解りやすいお話で充実した時間となりました。講演の概要は以下の通りです。

性別役割分担の「桎梏」は文字通り、自分らしく生きることを妨げる足枷・手枷になっており、それは女性だけの問題ではありません。コロナ禍で女性自殺者も増加していますが、依然として 40 ～ 50 歳代の男性の自殺率は女性の 2.5 倍を超えています。男性も「男なら…」という意識に縛られ苦しんでいます。今の日本は、男女を問わず生きづらさを感じさせられています。

世界的には、国際競争力の高い国ほど男女の平等率が高く、また、2000 年には女性の社会進出（就労）率が高い国ほど出生率が高くなっています。

福井県は女性の就労率が日本一ではありますが、女性管理職比率は最下位から 2 番目です。女性は仕事と家事育児に忙しすぎるのが原因だと思われます。これは近未来日本の課題を示唆しています。

家事労働は「女の仕事」とされ、男性は少し手伝えば褒められます。基本的なポジションが違っており、ここがメインの課題です。日本の女性は世界一働いています。意識改革に加えて、家事育児を男性も担えるファミリーフレンドリーな職場環境の推進も必要です。

（男女共同参画推進室室長　澤渡 千枝）

副学長
河合 優年

室長
澤渡 千枝

参加者の声

「新聞等で触れる程度の知識と意識はあるが、専門家の話を聞いてより客観的なデータも加わり、行動へ移すきっかけとなりそうでした。」

「福井県での貴重なデータの分析を伺い、大変に勉強になりました。」

「女性活躍というと女性に頑張れ、となってしまっているような気がしますが、男社会の中で頑張れというのは違うな、と感じているので、社会や意識の変革の重要性を改めて感じました。」

（アンケートより抜粋）

TREND

TRENDとは・・・話題になっているテーマについて、お話しいただくコーナーです。

今回のテーマは「育児・介護休業法改正について」です。令和 4 年 4 月から段階的に施行される内容について、人事部兼男女共同参画推進室の鈴木正一専門員に聞きました。

「育児・介護休業法改正について」

令和 2 年に小泉進次郎環境相（当時）が現役男性閣僚として初めて育休を取得したことが話題になりましたが、令和 2 年度における育児休業取得率は、女性 81.6%、男性 12.65%（厚生労働省の発表）でした。男性の取得率が令和元年度 7.48%から格段に増加したものの、まだまだ政府目標に届いていません。更なる推進のためにルール改正が必要と判断されており、今回の改正育児・介護休業法は、令和 4 年 4 月 1 日から 3 回に分けて順次施行されます。

まず令和 4 年 4 月 1 日からは、育児休業を取得しやすい雇用環境整備及び妊娠・出産の申し出をした労働者または配偶者に対する制度の個別の周知・意向確認の措置が義務付けられますが、本学院では既に設置されている個別相談窓口を活用する他、個別説明及び意向確認を実施します。

続いて令和 4 年 10 月 1 日からは、男性の産休・育休を推進する「産後パパ育休（出生時育児休業）」が育休とは別に新設されます。出生後 8 週以内に 4 週間まで、2 週間前までの申し出により男性に取得が認められます。

また、育休は原則として分割取得が認められませんでしたが、2 回に分割して取得することが認められるようになり、多様な休み方が可能になります。

令和 5 年 4 月 1 日には、育休取得状況の年 1 回の公表が義務化されます。公表対象は今後省令により定められますが、育休等と育児を目的とする休暇の取得率（とりわけ男性の）が想定されています。このような公表により、男性の育休取得が世間的に標準化されることが期待されています。本学院でもワーク・ライフ・バランス推進の観点から上司や同僚の理解が不可欠です。

（人事部兼男女共同参画推進室 専門員　鈴木 正一）

女性活躍総合研究所

2022年4月よりSOAR（ソアー）プロジェクトが始動します

MUKOJO 未来教育プログラム「SOAR」

本学では、創立 100 周年を見据え「MUKOJO ACTION2019 → 2039」に取り組んでおり、その一環として、2022 年 4 月より女性活躍総合研究所が主催する MUKOJO 未来教育プログラム SOAR（ソアー）が始動します。

今日、各分野のグローバル化や AI 等の進展により、社会構造や人々の価値観・規範意識が激変する新たな時代を迎えています。しかし、日本のジェンダーギャップ指数は世界的に低く、日本には依然として男女格差が存在しています。女子総合大学である本学は、女性の力が社会に発揮されていないことを大きな課題と捉えています。

SOAR は、時代による社会環境の変化に対応し、女性を取り巻く諸課題についての理解を促す女子総合大学の特色を生かした本学独自の「基盤教育プログラム」です。

本プログラムでは、近現代社会における女性の位置づけや課題の変化について、ジェンダー、キャリアとライフプランの視点から考察することによって、女性として生きることの意味的変化やジェンダー平等の重要性に気づくことを促します。また、女性を守る法や社会制度を理解するための教育を行い、学生が自身の将来を描くための様々な支援を行います。

学生一人ひとりが、SOAR を通じてより広い視野から自らの人生や社会を捉え、未来に対する無限の可能性に向けて、一生涯を自分らしくたくましく飛翔することを心から願っています。

（女性活躍総合研究所所長　高橋 享子）

女性活躍総合研究所

卒業生座談会「国内外で活躍する武庫女卒業生ー covid-19 パンデミック社会の新たな挑戦のなかでー」2021年10月30（土）開催報告

2019年度文部科学省
科学技術人材育成費補助事業(2019～2024)
ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ（牽引型）

今年で 5 回目となる国内外で活躍する卒業生との座談会を、10 月 30 日（土）に開催しました。

今回は、Zoom オンラインでの開催でしたが、在学生、卒業生、教職員、一般の方等、合わせて 61 名の方々にご参加いただきました。

登壇者は、シスメックス株式会社人事部で新入社員研修の講師を務める黒岩瞳さん、ハウスウェルネスフーズ株式会社で取締役・機能性事業本部長を務める佐々木直美さん、日本とアメリカで勤務されたあと、更なるキャリアアップを目指して NY Baruch College に在学中の松浦莉子さんの 3 名です。ニューヨーク在住の松浦さんは、日本時間に合わせて夜の 11 時にご参加いただきました。

座談会は、それぞれの卒業後の歩みをご紹介いただいたあと、テーマごとに意見交流をしました。在学生に向けてのアドバイスでは、「与えられた環境で最善を尽くす。」「周りの人や与えられた環境への感謝を忘れない。」「チャンスを生かし、夢を諦めないためにも常に勉強する。」など、それぞれの経験にもとづいた力強いメッセージをいただきました。

参加者からは、「社会で活躍されている卒業生のお話は心に響いた。」「年齢の違う 3 名のお話を通じて、『生涯学び続ける力』と『コミュニケーション力を備えた主体性』の必要性を感じた。」といった感想が寄せられました。登壇者からの、更なる活躍や夢の実現に向けた現在進行形の強い思いを聞いて、参加された方々も人生を考える好機となったのではないでしょうか。当日の動画 DVD 及び報告書冊子が完成しましたので、ご希望の方は研究所までお問い合わせください。

（女性活躍総合研究所副所長　山本 晶子）

女性活躍総合研究所

Pronunciation and Communication Seminar with Takeuchi sensei　November 13th, 2021

2019年度文部科学省
科学技術人材育成費補助事業(2019～2024)
ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ(牽引型)

The mouth has many muscles that we use to form sounds as we communicate. The presentation by Takeuchi sensei on November 13th focused on the formation of these sounds when communicating in English. The differences of pronunciation depend on if you learn English with an American or British accent or another global form of English pronunciation. The 34 participants attending this 2-hour seminar learned which parts of the mouth and body are used to form various sounds in English. Each slide presented by Takeuchi sensei illustrated the location of the tongue when forming a sound as well as the breath needed to make the sound. Some sounds in English may not be emphasized or used in Japanese; therefore, it was helpful to learn how to pronounce commonly used sounds, such as l, r, th, and w in English. Handouts were provided during the presentation which could be used for further practice after the seminar. In conclusion, the seminar highlighted the importance of practicing the sounds of another language as a key point for improved communication.

（グローバル化推進部門　A.L. エイデン）

「英語教本を発行します」

令和３年度のグローバル化推進部門は、毎年の恒例行事であるワシントン州立大学との研究交流会が、諸事情により実施できなかったことを受け、その代替として、英語を苦手とする日本人向けの英会話ガイドブックを試作しました。「若手研究者のためのインフォーマル英会話ハンドブック」と題した本は、国際学会における発表スキルの向上を目指したものではなく、発表後のインフォーマルな場における、円滑なコミュニケーションを図るためのものです。当部門の担当教員が、本学開講のいくつかの英語関連授業の中で実験的に利用する予定ですが、有志学生、教職員の方々のレビュアーも募っております。令和４年度は、これらの貴重なフィードバックを可能な限り集め、ハンドブックの正式版を発行したいと考えています。本件に関するお問い合わせは、女性活躍総合研究所（iwcareer@mukogawa-u.ac.jp）までよろしくお願い致します。

（グローバル化推進部門　吉田 徹）

女性活躍総合研究所

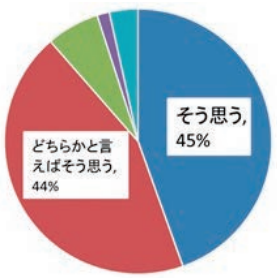
ひょうご理系女子未来塾活動について

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）令和２年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」

「ひょうご理系女子未来塾」の中心的な活動である中学生対象の出前授業を西宮市内および芦屋市内の中学校５校で開催しました。企業や大学に所属する講師が、仕事の内容や文理の選択、これまでのキャリアなどについて、画像やイラストによるスライドで授業を行いました。質疑応答では、多くの生徒から質問があり、予定していた終了時間を超過する授業もありました。受講した生徒からは、「理系の職場は固いイメージがあったけれど、自分が思っている以上にたくさんの種類の職場があることが参考になりました」など、多くの感想が寄せられ、アンケート調査でも高い満足度になりました。

（実施校（実施日）：西宮市立学文中学校（10 月 25 日（月））、芦屋市立精道中学校（11 月 10 日（水））、芦屋市立潮見中学校（２月４日（金）、18 日（金））、西宮市立上甲子園中学校（２月 22 日（火））、西宮市立浜脇中学校（３月１日（火））

進路選択の参考になりましたか？



「ひょうご理系女子未来塾」その他の活動

・親子対象ワークショップ　　Challenge! プロジェクト３月 20 日（日）、21 日（月）

（次世代女性人材育成部門　長谷川 裕紀）

女性活躍総合研究所

「女性のキャリアとコミュニケーションスキル講座」2022年1月22日（土）開催報告

2022年1月22日(土)14時より、(有)オフィスワイズ代表 瀬谷洋子氏をお迎えして、「女性のキャリアとコミュニケーションスキル講座」を実施しました。当初は対面で実施する準備を進めていましたが、新型コロナウィルス感染症急拡大のため、急遽オンライン開催に切り替えての実施となりました。直前の変更にもかかわらず、本学卒業生や在学生、教職員を含め、24名が参加しました。

「女性活躍推進の時代」と言われますが、キャリアに対する悩みは数多く存在します。そこで、多くの女性と共に働いてきた経験を持つ講師の方から、「仕事意欲を維持するためのモチベーションアップの方法や、仕事をする上で良好な関係を構築するコミュニケーションスキル」を、様々な事例や学術的な理論などから学ぶ機会を得ました。長いキャリアをデザインするには、①10年先の目標を持つこと、②予期せぬ機会を作り出すこと、③今持てるすべての能力スキルを活用することが重要になります。参加者からは、「自分自身の〝キャリア〟について、考え直すきっかけとなりました。」「仕事、これからの人生も淡々と自己の目標に向けて進んでいきたいと思います。」

などのお声をいただきました。満足度も非常に高く、「もっと聞きたかった」というお声をいただくほどあっという間に過ぎましたが、参加者一同、有意義な時間となりました。

（女性生涯キャリア支援部門　神栄 美穂）

女性活躍総合研究所

関西圏女子大学「第10回異分野交流会」2022年2月5日（土） 開催報告

関西圏女子大学「異分野交流会」を、本学が主催校となりオンラインで開催しました。本取り組みは、武庫川女子大学・奈良女子大学・神戸松蔭女子学院大学の3大学が中心となり2016年のキックオフ交流会から始まり、10回目を迎えた今回は学生、教職員37名が参加しました。当日は異なる分野から計7題の発表があり、本学からは、辻多重子氏（栄養科学研究所）、豊永洵子氏（健康・スポーツ科学科）、小林政子氏（附属総合ミュージアム）の3名が研究発表を行いました。

発表後は2グループに分かれて交流を深めました。

開催後の感想では「様々な研究・課題・発想があることを改めて認識した」「異分野の研究領域に関し、着想や分析方法など刺激を受けることが非常に多かった」等の声が寄せられ、研究の面白さや異分野ならではの気づきへと繋がる会となりました。

（ダイバーシティ化推進部門　福尾 恵介）

女性活躍総合研究所

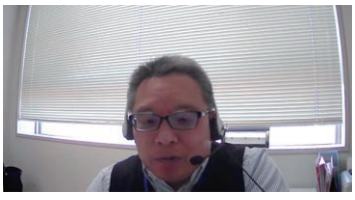
「テキストマイニングセミナー」2021年12月8日（水）/「統計学セミナー」2022年3月12日（土）開催報告

「テキストマイニングセミナー」清水 忠講師　兵庫医療大学

AIテキストマイニング、KHcoderを用いた事例を紹介して頂いた後に、実際に参加者がKHcoderを用いてテキストマイニングの実践を行いました。期日までに参加を希望された方は当初の定員を上回り、当日は45名がZoomで参加しました。参加者からは、「初心者向けの実践的な内容とおしゃっていた通りの構成でよかったと思います。」「思ってもみなかった分野にもテキストマイニングの手法が使われており、自身の業務にも応用ができそうです。大変勉強になりました。」などの感想が寄せられました。

（女性活躍推進部門　吉田 都）

「統計学セミナー（実践編）」波多江 崇講師　中国学園大学



波多江講師による3回目の開催となった今回は、「調査研究データの入力・集計・解析を学ぼう！」と題し、Zoomで保険薬局のサービスに対する患者満足度アンケートを用いたデータの入力・集計・解析方法の例を紹介いただきました。

40名の参加者からは、「データ解析するまでの準備の大切さ、手法がわかった」「実践的な内容で勉強になり、有意差の理解を深めることができた。」などの感想や、早くも次回の開催を期待する声が聞かれました。

女性活躍推進部門では、トライしたいけど何から手を付ければよいかわからないなど、研究の小さな一歩を踏み出すための講座を企画しています。希望のセミナーがありましたら、お気軽に研究所事務局までご連絡ください。

女性活躍総合研究所

「第２回国際女性デーMUKOJOフォーラム」2022年３月５日（土）開催報告

2019年度文部科学省
科学技術人材育成費補助事業(2019～2024)
ダイバーシティ研究環境実現
イニシアティブ（牽引型）

「第２回国際女性デー MUKOJO フォーラム」を 2022 年３月５日（土）に開催しました。

女性活躍総合研究所が主催する「国際女性デー MUKOJO フォーラム」。第２回となる今回も、昨年同様に対面とオンラインの同時開催で行い、学生、教職員はじめ、卒業生、一般の方など、約 100 名の方々に参加いただきました。

【第１部】基調講演「私たち女性の未来」

株式会社プロアシスト代表取締役社長の生駒京子氏より、ご自身の経験からイノベーションにつながるダイバーシテの推進やその必要性についてご講演いただきました。関西経済界の今後の展望にも触れ、女子大の未来を、グローバル規模で発信してほしいとエールが送られました。

【第２部】パネルディスカッション

◇パネラー：生駒京子（株式会社プロアシスト代表取締役社長）
　　山本晶子（共通教育部教授）
　　吉川紀子（薬学部准教授）
◇ファシリテーター：高橋千枝子（経営学部教授）

第１部のテーマを受け、「経済界の視点」「行政の視点」「研究者の視点」で日本のジェンダー平等が遅れている理由」「女性・男性の意識改革について」「女性の未来について」などの活発な意見交換が行われました。

【第３部】「生涯キャリアデザインを考える」最終選考者スピーチ / 表彰式

昨年８月より原稿を募集した結果、中学部門、高校部門、大学 / 大学院部門の３部門において計 161 件の応募がありました。当日は二次審査まで進んだ８名による最終選考者スピーチが行われ、各部門ごとに最優秀賞１名、優秀賞２名（高校の部は１名）が決定しました。（敬称略、同順位は五十音順で記載）

部門	最優秀賞	優秀賞	優秀賞
中学	附属中学３年 藤長 紗菜	附属中学３年 浅成 愛子	附属中学３年 伊藤 美柚
高校	附属高校２年 福嶋 梨乃	附属高校２年 久野 美希	
大院	大学院生活環境学研究科２年 北林 珠奈	大学英語文化学科３年 生駒 鮎美	大学経営学科２年 今井 秋音

参加者からは、チャットやアンケートにより「このイベントが、現役生も卒業生も教職員も巻き込んで、社会や世界における女性活躍をコアテーマとして、武庫女共同体の認識と形成のきっかけづくりになれば素晴らしい」など、今後への熱い期待が寄せられました。

【男女共同参画推進室 HP】

【女性活躍総合研究所 HP】

★次号より、ペーパーレス化の観点から紙での配付は行いません。info@MUSES でのご案内及び HP への掲載のみとなりますが、変わらずご覧くださいますようよろしくお願い致します。

学校法人武庫川学院　武庫川女子大学　〒663-8558兵庫県西宮市池開町6-46　本館4階 407号室

男女共同参画推進室
TEL ：0798-45-3542　FAX：0798-45-3535
Mail：gsankaku@mukogawa-u.ac.jp
URL ：https://www.mukogawa-u.ac.jp/~gsankaku/

女性活躍総合研究所
TEL ：0798-45-3737　FAX：0798-45-3535
Mail：iwcareer@mukogawa-u.ac.jp
URL ：https://www.mukogawa-u.ac.jp/~iwcareer/